知事のひとこと vol.67

奈良県知事
荒井 正吾

今月の県民だよりの特集は、「壬申の乱」です。といっても、壬申の乱自体、あまり知られていない面もあって、どうして特集するの、と思われる方もおられるかもしれません。壬申の乱は、天智天皇の弟と息子による皇子同士の争いということもあり、日本の歴史の中で大きく取り上げてこられなかったようにも感じています。

しかし、この乱は日本という国家の礎を築く出発点にもなった歴史上の大事件でありました。勝利した天武天皇は唐を中心とした国際社会の中で、倭と呼ばれていた国の正統性を確立するため、律令制度を採用し、『日本書紀』と『古事記』という歴史書の編纂を命じ、藤原京という日本国で初めての都城の建設に踏み切られました。新しい天皇が皇位を継がれる時必ず行われる「大嘗祭（おおにえのまつり）」は、673年に天武天皇が飛鳥で初めて行われたものでした。

天武天皇の御志は、皇位を継承された持統天皇が引き継がれ、今日にも続く国の基礎を完成されました。国のはじまりを創られた天武・持統の御世が、日本の歴史の中で色あざやかに大きな輝きを放っていることは奈良県民の大いなる誇りでもあります。

毎月11日は人権を確かめあう日 人権コーナー

心に語りかけることば

リニューアルオープンされた水平社博物館を訪れた。その中に「エピローグ:ことばの『美術館』」というコーナーがある。白い壁に囲まれた空間に、額縁のようなモニターや投影がいくつもあって、そこに一定時間ごとに次々とメッセージが現れる。世界中の作家や詩人などの著作物などからの引用や、身近で大切な人の言葉など出典はいろいろだが、読んでいると、時空を越えてその人が語りかける声や表情までが伝わってくるような気持ちになる。

その中に、ひときわハッとするメッセージがあった。「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」フランスの作家サン=テグジュペリの『星の王子さま』の一節だ。この言葉を見て、私はこれまで出会った多くの人たちや自分の人生に思いを巡らせた。年齢・性別や外見、出身地、仕事といった属性だけでなく、その人がどのようなことに喜怒哀楽を感じてこれまで生きてきたのか。それら「目に見えない」全てのことを思い、人に向き合うことができれば、それが「人間を尊敬する」ということなのではないか。そう問われているような気がした。

「全国水平社創立100周年記念映画製作委員会」が、島崎藤村の小説「破戒」を映画化しました。

県内では、7月8日から、ユナイテッド・シネマ橿原で公開予定です。

©全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

今月のポスター

橿原市立鴨公小学校 4年
福田（ふくだ） りのんさん

※学校名・学年は作品作成時のものです。